

自主防災組織

東日本大震災時の自主防災活動
あの日あの時

太白区茂庭台五丁目町内会

中学生も高校生も地域の防災担当

中学生提案の壁新聞で情報提供を行いました。

茂庭台 5 丁目町内会は、地震発生当日から指定避難所（茂庭台中学校）で「光と暖かさ」を確保しました。私たち町内会は、5 年前から「即効性のある備え」をキーワードに、発電機、投光器や無線機等を備えてきました。避難生活で、発電機は灯りを確保するための投光器、情報収集のための PC、喘息の治療のための吸引器等に電気を供給しました。無線機は地域内 2 つの避難所間の連絡や被害状況の把握に威力を発揮しました。また、住民に呼びかけ、各家庭にある食料を持ち寄って食材を確保し、不要になった木材、裏山のかんぱつ材をまきとして利用し、炊き出しを行いました。

中学生や高校生もさまざまな役割を担いました。トイレに使用する水をプールから汲んだり、安否情報を知らせるポスターを掲示したり、在宅避難者に非常食、飲料水や生活用水等を宅配したりしました。避難所の壁に新聞を掲示して、地域外の情報を提供しようと提案し、実施したのも中学生でした。



▲炊き出し、飲料水の運搬を担う中学生



▼中学生の提案で始めた壁新聞



▲投光器の明かりと避難住民

詳しくはホームページ

<http://yybousai.digi2.jp/> をご覧ください。